

（ 若者に人気がない業種  
と言われているが、  
I社の定着率は高い ）

印刷業は、あまり若者に人気のある業種ではないという。しかし、同社では同業他社から聞くほど離職は多くなく、2年前の工場新設の際に採用した10名のうち、8名が継続して現在まで勤務している。

定着率が良い理由については、「機長とサポート役のペアリングによるオペレーションがうまく機能しているため」と分析している。

# 事例 10

衛生検査所

## 正社員登用後の研修や、評価・処遇の工夫によって、定着率を高める

企業データ

衛生検査所業 K社

設立：昭和32年

資本金：5,000万円

従業員数：約800名

### 概要

K社は、医療機関から血液などの検体を預かり、検査する「受託臨床検査業務」、学校や企業などで健康診断における検査を行う「予防医学業務」、水・食品などの安全性を検査する「環境衛生検査業務」を事業の柱とする総合的検査企業である。

同社では、中途採用の9割以上が、自社内で働く非正規社員からの登用となっている。自社で非正規社員として1年以上の業務経験を有する人を対象に、各事業所からの推薦方式で、例年20～30名の人が選考を受けており、不合格者は数名程度であるが、再度挑戦することも可能である。即戦力の人材を正社員として確保できる貴重な人材確保ルートであるとともに、非正規

社員のモチベーション向上というメリットがある。また、非正規社員の中には、自社への理解が不足しており、そのためにモチベーションが低い人もいたことから、登用に当たっては新入社員研修の受講を必須とし、改めて自社への理解を促し、非正規社員から正社員への意識変革に効果を発揮している。

さらに、登用後の処遇は、同年齢の正社員の賃金の平均額を基準にしているが、その後の人事考課の結果が高ければ賃金に反映されることとなるなど、非正規社員という経歴がマイナスにはならない、公平な評価・処遇の仕組みをとっているため、登用を目指す非正規社員のモチベーション向上にもつながっている。

Ⅲ

複

線

型

採

用

企

業

事

例

15